

読者ひろば

Readers' square

戦争の記憶の 伝え方考える

高谷和生 64

市民団体代表

(玉名市)

兵庫県加西市旧鶴野

飛行場跡で、旧日本海軍戦闘機「紫電改」の実物大模型が完成し、一般公開に1500人もの人々が詰めかけたとの報道に接した。戦後74年目の夏、戦争の記憶が薄れ、平和の継承が課題となるなか、自治体が参画しての安易なレプリカ機復元には疑問を感じる。

近年、九州内に限ってもいくつかの復元事例や計画がある。南九州市では「特攻基地知覧」の戦争実相を伝えるために、掩体壕などの発掘調査や史料調査が行われた。その後はフィールドミュージアムとして掩体壕を景

観整備し、陸軍特攻で最も多く出撃した99式襲撃機の特攻仕様復元機が屋外展示されている。この展示により、大戦末期の特攻の実相がより分かり易くなった。

一方、「宇佐市平和ミュージアム(仮)」の展示計画では、映画撮影で使用した復元零戦機に加え、当地で訓練が行われた97式艦上攻撃機や、特攻出撃した桜花機の実機復元がさらに予定されているという。これらは入館者に一定の興味関心を持たせる訴求力があるとはいえず、その必然性が感じられない。地元保存団体などでは多額となる復元機よりも、CG技術等により空襲で失われた町並みの復原など、市民に密着した展示とすべきと要望を重ねている。

8月には熊本市で「第

23回戦争遺跡保存全国シンポジウム」が開催される。近年目立ってきた自治体による平和祈念館設立で「戦争の記憶をどのように史実に添って継承するか」を全国の皆さん方と議論していきたい。加西市の実機復元でも、新設資料館の展示目玉となっても、あたかも兵器礼賛のみの施設と見まがうこととなり、伝え手として適切であろうか。

昨夏話題となった戦跡キャラクター問題と同様に話題性のみで、戦争や戦争遺跡を美化し、歴史事実の歪曲・矮小化につながりかねない。

「読者ひろば」への投稿は400〜600字。「主張・提言」に採用することもあります。欄外に郵便番号、住所(〒)、パート・マンション(名も)氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する。趣旨を変えず文章を直すこともあります。原稿は返却しません。二重投稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用です。掲載分には薄謝を送ります。

投稿される方へ

◇モノクロ作品募集 「私の一字」好きな文字一字を書きその理由も。モノクロギャラリー」イラスト、写真など、タイトルを付けて。はがき、封書、メールで年齢、職業も忘れずに。作品は返却しません。あて先は①郵送〒860-18006、熊本市中央区世安町1-7-2 熊日「読者ひろば」係②ファクス(文章のみ)096(3003)126080×1 hiroba@kumanichi.co.jp